

本人の
言い分
から
スタート
する

本人の
言い分を
聞き取り、
本人の願
いを明ら
かにする。

本人と
話し合い、
摺り合わ
せ、折り
合う点を見
つける。

内容を
文章化し、
期限を設
定して、
契約書を
策定する。

それが
守れたか
どうか評
価し、次
の契約に
つなげる。

*「約束」とい
う禁句を避
けるために、こ
こでは「決め
事」、「契約」
という用語に
置き換えて
いる。



ここでは、私自身の実践に基づき、小栗正行先生(宇部フロンティア大学臨床教授)が提唱されている「約束履行支援」の考え方も参考にして、決め事(契約)のサイクルをまとめてみました。

もし、集団のルール(社会的な約束)から外れがちな子どもがあれば、約束を守るための支援が必要で、それは、意思決定支援であると言えます。

1. 本人の言い分を聴き取り、本人の願いを明らかにする。(聴取)
2. 本人と話し合い、摺り合わせ、折り合う点を見つける。(調整)
3. 約束を文章化し、期限を設定して、契約書を策定する。(契約)
4. 約束が守れたかどうか評価し、次の契約につなげる。(評価) → 1に戻る。

➤ この支援のサイクルを始めるための前提条件として、キーパーソンの存在(☞ LF③)と、こだわりの緩和(☞ LF④)が必要です。

⑤

心の決めたままに我が道を ～意思決定を支えるやり取りを通して～

意をくみ取る*手がかり...見守りの視点

➤眼ざし・手ざし・指さし—意をくみ取る*視点

- ・ その赴く先に目を向けて

- 眼ざし—何を見ようとしているの？
- 手ざし—何をしようとしているの？
- 指さし—何をいっしょに見たいの？



- ・ 意(意思)をくみ取る(推察する)*

- そこに込められた意思(意味)を読み取ろうとする

➡ **まずは子どもを見守り意をくみ取る*ことから**

* 私とあなたの二項関係で、共有する第三項(話題)を意識するために、必須のプロセス。

家庭での子育てでも、施設・園・学校での療育・教育でも、大人が子どもと相対するとき、子どもの意をくみ取るということは、最も大事な基本中の基本です。

まずは、コミュニケーションのスタートラインにつくためには、子どもの意をくみ取ることから始めます。その手がかりとなる視点は、子どもの眼ざし、手ざし、指さしです。

※ 文中の挿絵イラスト ☞ かわいいフリー素材 いらすとや <https://www.irasutoya.com/> より

長野圏域療育コーディネーター／言語聴覚士 安川 健治

〒380-0928 長野県長野市若里6-6-14 児童発達支援センター にじいろキッズらいふ

TEL 026-219-3781 業務携帯 080-8877-1709 E-mail k-yasukawa@nagano-shajikyo.or.jp

もし意をくみ取ることが困難だったら

➤何らかの方法で意思の疎通を図る

- AAC Augmentative and Alternative Communication
(補助・代替コミュニケーション)

➤ 音声による伝達以外の手段をことばの補助または代替として利用する

- 意思疎通支援

➤ 意思疎通支援者(意思疎通を支援する者)の派遣等



➡意思の表出を支援し意思の疎通を図る

* 意思表出支援は意思決定支援のスタート、意思疎通支援は意思決定支援のベース。

- もし、子どもの意をくみ取ることが困難だったら、何らかの方法を工夫したり、対策を講じたりして、意思の疎通を図ることになります。
- AAC (補助・代替コミュニケーション) は、音声による伝達以外の手段をことば (音声言語) の補助または代替として利用することです。
- 例えば、視覚シンボル (ドロップスなどイラスト風の略画) を用いる方法があります。絵辞典などの絵本を指さしながら、利用する方法もあります。
- コミュニケーションは、キャッチボールにたとえられることがあります。意思のやり取りに困難がある場合、その成否を握っているのは受け手の側です。
- 意思疎通支援は、聴覚障害者向けの手話通訳・要約筆記をはじめ、他にも広がりつつあります。

父性的対応
(方向づけ)

あるべきを
教える

社会
適応

意思の
ベクトル

個性
伸長

あるがままを
認める

母性的対応
(下支え)

- 近年は、障害者権利条約の批准 (2014年) を契機に、意思決定支援という考え方が、普及してきました。

<スローガン>

Nothing About us without us

「私たちのことを私たち抜きに決めないで」

※ その条文には、障害者は「保護の対象」ではなく「権利の主体」とであると謳われています。

- 発達の途上にある子どもについては、将来に向けて本人の意思決定がなされていくために、健全な意思のベクトル (エネルギー) を育てていくことが必要です。
- そのためには、母性的な対応と父性的な対応のバランスを取り、個性の伸長を図りながらも、社会に適応できるように、支えていくことが重要です。